

# トラック教習生 物流企業に紹介

## 備南自動車学校がサイト

### 東南アジア人材も受け入れ

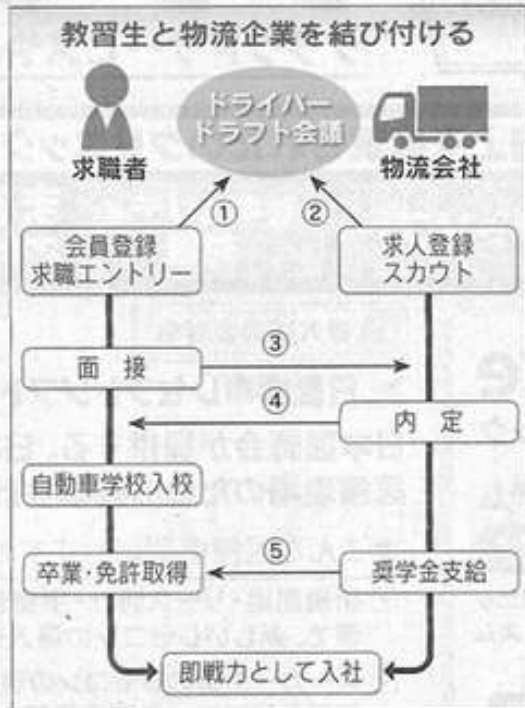
備南自動車学校(広島県福山市)は物流企業に有償でトラック教習生を紹介するサービスを開始した。ドライバー不足に悩む運送会社と、大型車免許などを取得して転職しようとする教習生を結び付ける。免許取得と就職支援をフランストップで行うサービスは珍しい。年間3千人の紹介を目指すほか、東南アジアの実習生なども受け入れる。

7月にマッチングサイト「ドライバードラフト会議」を立ち上げた。求職者がエントリーし、企業が関心を示せば面接する。内定した段階で求職者は自動車学校に入校。免許取得時に内定企業から教習代としての奨学金を受け取り、入社して即戦力として働く。

大型免許の取得を目指す人には正社員として安定収入を得て長く働きたいと考えている人が多い。最近では運転手をつなぎ留めるために給与を引き上げる会社も増えており「この程度の負担は受け入れられる」(井上道信社長)と見る。また、準中型の免許は18歳から取

得られるため「ひとり親の高校生なども卒業時に奨学金で免許を取って即戦力として働ける」。春・夏休みは普通車の教習生が増えるので、備南自動車学校が教育できる大型車の教習生は年500人程度。だが「早期に全国の教習所と連携して年3千人の紹介を目指す」。ベトナムの技能実習生派遣機関なども連携し、東南アジア諸国連合(ASEAN)人材も

取り込みたい考えだ。2017年の日本のトラック運転手は約83万人だった。米ボストンコンサルティンググループはこれが27年に24万人不足すると推計する。労働環境の改善や荷物の増加で96万人必要になる一方、なり手が72万人に減るためだ。物流業界では運転手の育成・確保が喫緊の課題となっている。少子化で新規の免許取得者も減っており、教習所も普通車に代わる収益の柱の確立が急務だ。高齢者講習は単価が安く、



100人超が泊まれる合宿施設を持ち広く西日本から教習生を集めている(広島県福山市の備南自動車学校)

備南自動車学校は大型車に照準を定めた。同社は1961年に創業。18年7月期の売上高は約2億7千万円を見込む。116人収容の合宿施設を持ち、広く西日本から教習生を集める。大型車の講習は1日2時間が限度だが、合宿の空き時間にフォークリフトや玉掛け技能、運行管理者など複数の講座を受講でき、最短12日間で6種類の資格を取得できる。

2018年8月14日  
日本経済新聞より